

令和3年度 学校関係者評価書

宇和島市立和霊小学校

1 確かな学力の定着と向上（必須）

- iPadの使用については先生方の努力が実り効果あった。保護者からはいろいろな意見があるが、これらの意見を先生方が参考にされたらよいと思う。教員間で授業改善・技術向上に向けた取組が図られていると思う。
- 授業改善については、意識の高まりがよい結果に結びついていると思われる。ただ、iPadの活用については、効果的に活用されていると思うが、もう一度使用目的や学習への効果等話し合う機会を持つことが大事か。
- 家庭によって、保護者がiPadをきちんと指導できないこともあるのではないだろうか。
- ふるさと学習の評価が、D→Bになった。どのようなことを具体的に行ったのか知りたい。総合的な学習や道徳科の学習で、ふるさと学習に関する内容が多かったことも関係する。また、2学期には、新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いたこともあり、地域に出向く機会があったことも評価につながったのだろう。教職員の評価は、前期同様に高くない。総合的な学習の内容について検討する必要があると感じている。
- 家庭学習については、家庭によって差があるのではないだろうか。家庭がしっかりと子供に関わっているのだろうかと感じることもある。子どもだけの問題ではない。スポーツ分野には熱心だけど、学習にはどうかと思う家庭もある。子どもの気持ちを受け止めたり子どもの思いをくみ取ったりしながら保護者に関わってもらえたらと思う。
- 学校が工夫して取り組んでいることに家庭がもっと関心を持ち、応援してもらえたらどうか。

2 生徒指導の充実（必須）

- 前期に比べて評価が上がっている項目が多い。よい方向だと思う。
- あいさつについては、子供たちの評価は高いが、保護者からは、3年前よりできなくなっているなどの意見がある。先生方の評価も低い。大人側からみるとできていないと思えるが子どもはできていると評価している。指導の仕方をもっと工夫できるのではないだろうか。例えば中学校は、学校運営協議会に、生徒会の子供たちが参加して意見交換をしている。小学校はどうだろうか、6年生を参加させてはどうだろうか。そうなると、昼間の実施にはなるが、児童会役員に参加してもらって子供の立場で意見を言わせるとよい。一緒に考えていこうという感じで大人と子供が共に課題解決に向けて考えてみたらよいと思う。ふるさと学習についても同じ手法でできるのではと思う。
- 児童の自己肯定感等については、昨年度より低くなっているようだが、コロナ禍で行事等削減され子どもたちの活躍の場が減っており、互いのよさや認め合う場、自己表現できる機会が減ってきているからだろう。児童がのびのび活動できるようになれば、また向上してくるのではないだろうか。
- 保護者に対してもiPadの活用方法についてもっと発信していかないといけないと思う。
- 子どもとの信頼関係を深めるために、子どもたちと過ごす時間や向き合う時間を考えていきたい。

3 働き方改革（必須）

- 先生方は、通常の学習指導だけでも忙しいのに、感染症対策にも時間を取られ、精神的にも大変で余裕がないと言うのが本音だろう。そんな中でもよく努力されていると思う。
- 学校は、SSSやICT支援員によるサポートもあり助かっているようだ。先生方のサポートをする立場の人やその仕事の内容が増えるとうい。教育委員会に学校が伝えることができる機会があればよいと思う。

4 地域との連携（必須）

- どんど焼きなど地域の行事に参加する子ども・家庭が少ない。時代の流れもあるとは思いますが、今後のために地域連携の部分で発信が必要なのではないかと。
- 地域との連携の項目が極めて高いと感じた。評価がAであるのはとても素晴らしい。和霊の取り組みが、子どもたちにも保護者にも伝わっているということが明らかである。地域と学校の基盤ができているということも言える。先生方の意識改革も必要なのではないかと。地域の技術と伝統を発信することを、地域の方が遠慮なく行えることが必要である。教員だけですべて学習を進めようとするのではなく、地域の方の力を生かすということが大事。
- 先生方だけでできない部分は、地域の人材を生かすとよいと思う。
- 個人情報との関係でなかなか話をしただけでないことが多く、その点が悩みである。
- 短期間で改善されるものではないので、取組を地道に続けていくことが大事か。